

第13回安全シンポジウム

原点に立ち返り、業務・労働環境の 実情・変化に即した仕組みを構築する

～労使が「人」の性質に向き合い安全確立の取り組みを職場から創る～



2024年10月4日、京都市の烏丸コンベンションセンターにおいて「第13回安全シンポジウム」を開催した。加盟単組および連合・交運労協に集う産別から総勢250人が参加し、基調講演のほか、加盟単組そしてJR連合から「安全確立」に向けた課題提起を行った。またパネルディスカッションでは、さらなる安全確立に向け積極的な討論が展開された。

2005年の福知山線列車事故から20年を迎えるにあたり、改めて安全確立の再認識が求められる今日、二度と悲劇を繰り返さないためには、すべての組合員が安全の重要性を十分に認識しながら業務に精励しなければならない。

「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を目標に安全対策に取り組んできた結果、JR産業の安全性は確実に高まってきたと確信できるが、その一方で、今なお事故や危険な事象が絶えることなく発生している。

本シンポジウムでは「原点に立ち返り、業務・労働環境の実情・変化に即した仕組みを構築する」をメインテーマに、労使が真摯に向き合い、安全確立の取り組みを職場から創る努力の必要性を強く訴えた。



司会進行：JR連合事務局長 政所 大祐

主催者
あいさつ

安全の確立と労災事故防止の 取り組みを最優先に 社会の信頼と働く仲間の命を守る

107人の尊い人命が奪われた福知山線列車事故が発生した2005年4月から、まもなく20年を迎えます。事故は取り返しのつかない悲劇を生みます。JR連合および加盟単組は、安全の確立を運動の最優先課題に位置付け、二度と悲劇を繰り返さない決意で活動を展開していきます。すべての組合員は、安全の重要性を十分に認識して業務に精励し、過去に比べてJR産業の安全性は確実に高まっていると確信します。しかし、あらゆる場面において不断に安全最優先の取り組みを続けることは、決して容易なことではありません。安全確立のために「できることをやり切れるのか」を常に自問自答しつつ、安全の確立に取り組まなければなりません。

今なお、事故や危険な事象は絶えることなく発生しています。この1年間で7人のグループ会社・協力会社の社員が労災事故で尊い命を失いました。私たちの職場で仲間が命を失う事故や危険な労災が相次いでいる事態を直視し、「働く仲間の安全を守ることが、ひいては鉄道全体の安全確立につながる」という認識に基づいて、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を必ず実現すべき目標に据えて取り組んでいます。

最近の労災に目を向ければ、触車、感電、墜転落に交通事故を加えた四大労災

の防止を意識してきたにもかかわらず、同種の事故、事象が繰り返されていることに危機感を高める必要があります。改めて「人間はミスを犯す」「ヒューマンエラーは結果であり原因ではない」との考えに基づき、原点に立ち返り働く人をよく見て、そして現場起点で原因や背景を分析し、実効性のある対策を講じなければなりません。

また、世代交代が進むとともに、離職増加や採用難に伴い労働力不足が深刻化し、技術革新や効率化などの施策への対応も迫られています。泊勤務や夜間作業、転勤などを敬遠する若手の勤労観の変化なども踏まえ、職場の実情や変化を見据えた実効性のある対策が求められます。

2024年に入ってJR九州高速船における船首区画への浸水に関わる不正・隠蔽、最近ではJR貨物の事例を契機に、JRをはじめ鉄道事業者全体で輪軸組立作業でのデータ不正の問題が発覚したほか、東北新幹線では走行中の列車の連結器が外れて編成が分離するという事象も発生しました。JR産業の安全やコンプライアンスに対する社会の信頼を大きく損なう事態になっていることに強い危機感を持つ必要があります。

私たちは事態を深刻に受け止めつつ、決して責任追及ではなく、現場第一線で働く組合員が関与する中で不正や隠蔽が

発生してしまった原因や背景を検証しなければなりません。ルールの逸脱は許されないとの問題意識に基づいて妥協なく現場から指摘すること、また、迷いなく指摘できる環境をつくることが求められていると考えます。東北新幹線の編成の分離については、原因が究明されていない段階で同種編成の運行を開始した対応などに関し、JREユニオンが会社申し入れを提出しています。社会から安全に対する信頼を得られるのかという視点から、問題意識を高めた対応が求められると考えます。

これらの事象は、あらゆる職場で同様の背景や環境が存在し、どこでも起こり得ることを示しています。こうした認識を共有して、自分ごととしてとらえ、安全意識、コンプライアンス意識を高めて、再発防止に取り組むよう訴えます。

JR連合 会長

荻山 市朗

